

朝鮮民主主義人民共和国の不変の指針である 自主、自立、自衛に関する思想の正当性

社会科学院金日成・金正日主義研究所所長
ソソンイル

朝鮮民主主義人民共和国はチュチェの旗を高く掲げて自主、自立、自衛の道一筋を変
わることなく前進している尊厳ある社会主義国家、自主の強国です。

金正恩総書記は次のように述べています。

「主体性は社会主義の本性であり、政治における自主、経済における自立、国防にお
ける自衛は朝鮮式社会主義の永遠の勝利と隆盛・繁栄への道である。」

政治と経済、軍事をどのような立場と原則で発展させていくかということは、国と民
族の興亡を左右する中核的な問題です。古今東西の思想家と政治家が自分なりの方式で
解決しようと苦心しながらも実際の解答を求められなかったのがこの問題であるとも
いえます。

これに関連した朝鮮労働党と共和国政府の原則的立場は一貫して確固不動です。それ
は政治における自主、経済における自立、国防における自衛に国と民族の真の尊厳と繁
栄の道があるというのです。

朝鮮民主主義人民共和国の不変の指針である自主、自立、自衛に関する思想はもっ
と科学的な原理にもとづき、発展する現時代の推移に符合し、共和国の発展歴史を通じ
てその生命力が余すところなく確証されたもっとも正当な思想です。

朝鮮民主主義人民共和国の不変の指針である自主、自立、自衛に関する思想は何より
もまず、チュチェ思想が明らかにした自主性の原理に基づいている正当な思想です。

チュチェ思想は自主性を中核とする自主の革命思想です。

チュチェ思想は世界と自己の運命の主人として自主的に生き、発展しようとする属性
である自主性を人間の本質的属性、社会的存在である人間の生命として規定しました。

人間の第一の属性が自主性であるように、民族の生存を保障する第一の源泉も自主性
にあります。個別的な人間の生活においても、民族をなす大集団の生活においても、そ
の運命を左右する基本的な生存条件は自主性であるといえます。つまり、自主性は人間
の生命であると同時に国と民族の生命です。

真理は単純でありながらも万人の限りない共感を呼び起こすというところにその特
徴があります。

人間の本質的属性、生命が自主性であり、国と民族の生命も自主性にあるという哲学
的解明はいかなる従属と束縛も望まず、自由に生きようとする地球上のすべての人々、

すべての国と民族の一致した志向を込めている真理です。

まさに、チュチェ思想が解明した自主性の原理を党と国家活動に確実に具現することを求めるのは朝鮮民主主義人民共和国が一貫して堅持している自主、自立、自衛の原則です。

政治における自主は自国人民の民族的独立と自主権を守護し、自国人民の利益を擁護し、自国人民の力に依拠する政治を実施することを意味します。経済における自立は他国に従属せず、独り立ちできる経済、自国人民に奉仕し、自国の資源と自国人民の力に依拠して発展する経済を建設することを意味します。国防における自衛は自力で自国を防衛することを意味します。

政治における自主、経済における自立、国防における自衛は互いにつながっており、この三つの中で一つでも実現できないときには国と民族の生命である自主性を真に擁護することができません。

このように自主、自立、自衛に関する思想は自主性の原理から出発して政治、経済、国防のすべての方面で国と民族の自主性を固守するための道を明らかにする正当な思想です。

朝鮮民主主義人民共和国の不変の指針である自主、自立、自衛に関する思想は次に、帝国主義者の暴政と専横が乱舞する中でも自主的發展を確固と志向していくすべての国と民族の一致した念願と意志に全的に合致する正当な思想です。

前世紀に比べるというまでもなく、21世紀に入っても世界は多く変化されましたが、昨日も今日も国際舞台で絶え間なくくり広げられる闘争の基本テーマは自主か、従属かのことです。

今日、国際舞台では国と民族の自主権と尊厳を守ろうとする進歩的人民と侵略と戦争、強権と専横を事とする帝国主義反動勢力間に深刻な対立と闘争がくり広げられています。

帝国主義者は自分らの支配権確保のために片手には核兵器を、片手には財布で誘惑しながら主権国家に対する軍事的脅威と恐喝、経済的浸透策動を執拗におこなっています。

日増しに弱体化する自分らの覇権的地位を維持するためにあかく帝国主義者のために数多くの人々が広い領土はあっても真の生のよりどころがなくて自国を離れて流浪の道に立っており、豊かな自源はあっても貧困化して悲惨に暮らしています。

帝国主義者が招いた戦争と紛争、それによる後遺症に苛まれる国々では帝国主義に対する反感と嫌悪感が日増しに増大されています。

事態は厳しくてもそれは、自主的な新しい世界に向かって進む過程に一時的に生まれる歴史の渦巻きに過ぎません。

今日、自主的に生きようとする人類の志向と念願はますます強くなっており、自主の道へ進む時代の流れは阻めないものとなっています。

侵略的軍事力と経済力の優勢、不当な干渉と力の行使によってすべての国を新植民地主義支配の体裁に縛り付けておこうとする帝国主義者の策動は自主性を志向する国と

人民の強い反撃と抵抗にぶつかっています。

多くの諸国が国際舞台で自分らの発言権と地位を高めながら帝国主義列強の支配的地位と独占権に反対して堅実に闘争しています。

発展途上諸国は互いの関係を密接にする一方、自分の内部と周囲に延ばされる支配主義的魔手を防ぐための闘争を繰り広げています。

独自の、あるいは連合して帝国主義者の干渉を阻むための活発な動きを見せています。

ほとんどの発展途上諸国は略奪的な経済秩序と金融体系を排撃して新たな秩序を志向して進んでいます。

このように、歴史の流れを逆行させようとする帝国主義者の強権と専横がいくら横暴非道だとしても自主は依然として阻むことのできない時代の流れとなっており、自主、自立、自衛の道のみが民族が生きる道であり、国が繁栄できる道である真理を確実に実証しています。

朝鮮民主主義人民共和国の不変の指針である自主、自立、自衛に関する思想の正当性は朝鮮革命の実践によって余すところなく検証されました。

20世紀の40年代の中葉までも朝鮮は立ち遅れた植民地反封建社会、国権と国号まで奪われた弱小国でした。

チュチェ 37(1948)年9月9日、朝鮮民主主義人民共和国が創建されてから朝鮮は事大と亡国の歴史に終止符を打ち、自主、自立、自衛の道一筋に力強く前進してきました。

人が事大主義に走れば愚か者になり、民族が事大主義に染まれば国を滅ぼし、党が事大主義に陥れば革命と建設を失敗させるという有名な名言を出した金日成主席は建国の初期から自主、自立、自衛の原則をしっかりと堅持してきました。

自主、自立、自衛の思想は偉大な金正日総書記によって朝鮮革命のもっとも厳しい時期にもゆるぎなく堅持されてきました。

創建初期から帝国主義者の敵視対象として指定されて例を見ない脅威と難関の中で社会主義を建設しなければならなかったわが共和国が今日に至るまで自分の自主権、生存権、発展権をしっかりと守り抜いたのは自主の道、自立の道、自衛の道へと粘り強く進んできたからです。

わが共和国は敬愛する金正恩総書記を陣頭に頂いて自主で尊厳あり、自立で繁栄し、自衛の銃剣で子孫万代を保証する全盛期を迎えました。

今日、わが共和国が政治・軍事強国の国威と栄光を全世界に轟かしながら自分の力で経済強国建設を推し進めているのは自主、自立、自衛の思想、革命路線の輝かしい勝利です。

朝鮮民主主義人民共和国は金正恩総書記の指導のもとに朝鮮革命の不変の指針である自主、自立、自衛の思想をしっかりと具現してその威力でこの地に社会主義強国を必ず建設するでしょう。